

News Release

地域経済活性化支援機構

2015年4月7日

有限会社船坂酒造店による「プロジェクト四ツ星」に対する 株式会社十六銀行及び観光活性化マザーファンド協調融資の実施について

このたび、有限会社船坂酒造店(本社:岐阜県高山市、代表取締役会長:有巢一臣、代表取締役社長:有巢弘城、以下「船坂酒造店」)による「プロジェクト四ツ星」の取り組みに対し、株式会社地域経済活性化支援機構(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:瀬谷俊雄)、株式会社日本政策投資銀行(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:橋本徹)及び株式会社リサ・パートナーズ(本社:東京都港区、代表取締役社長:田中敏明)の3社で組成する「観光活性化マザーファンド投資事業有限責任組合」(以下、「当ファンド」)は、株式会社十六銀行(本社:岐阜県岐阜市、取締役頭取:村瀬幸雄、以下「十六銀行」)とともに、協調融資を実施致します。

船坂酒造店は、元禄年間より200有余年の歴史を刻む飛騨高山を代表する酒蔵の一つであり、飛騨地方の美しい自然が生み出した湧水や酒造好適米を用い、寒冷な風土の下で「四ツ星」、「深山菊」、「飛騨の甚五郎」等の良質の地酒を醸造してきました。また、船坂酒造店は、内外から四季を通じて多数の観光来街客がある高山を代表する観光スポット、上三之町地区(歴史的町並み保存地区)に立地しています。

船坂酒造店が取り組む「プロジェクト四ツ星」は、こうした土地柄を活かし、杜氏管理による本格寒仕込(季節醸造)と観光客向けに通年醸造を可能とする小規模機械化による酒造りを両立させ、ターゲットとする顧客層に合わせたラインナップの強化等を図るユニークな取り組みです。

大吟醸酒等の特定名称酒の消費の増加、「和食」の世界文化遺産化に伴う日本酒需要の高まり等、長期低落基調にあった日本酒消費に足許で変化の兆しが見られます。本件は、こうした流れを受け、多様な顧客層への訴求を可能とするものであり、インバウンドもその対象としています。和食との相性の良い日本酒を嗜む機会を訪日外国人客の多い高山にて提供することにより、海外での日本酒消費の拡大にも資するものと期待されます。

また、高山を代表する町並み保存地区にて酒類の製造・卸に加え、飲食、小売等多様なサービス機能を併設する船坂酒造店の一層の発展を通じ、高山地区の魅力付けが増し、来街者による街中滞留時間の延長、ひいては宿泊客数の増加に資すること等により、高山地域全体への波及効果が期待されます。

船坂酒造店の社章であり、大吟醸ブランドでもある「四ツ星」は、「船坂」の「ふ」の意匠の上に四つの○を付したものであり、三点の○は酒造りに不可欠な「米」、「水」、「風土」を表し、それをつなぐ真ん中の○が「人」すなわち蔵人(くらびと)の情熱を示し、「人」こそが酒造りに大切な要素を引き寄せ、紡いでいることを示しています。この「四ツ星」に込められた酒造りの神髄は、観光地高山の今後の地域づくりにも通ずる含意があり、観光活性化のキーワードである「食」、「自然」、「歴史・文化」とそれを繋ぐ「人」それぞれが密接に絡みながら、観光地高山の一体的な活性化が図られていくことを想起します。

本件は、我が国の代表的な観光地の一つである高山地域の一層の活性化に資する「プロジェクト四ツ星」に対し、十六銀行と当ファンドが協調融資を行うスキームであり、船坂酒造店の経営基盤の強化に資するとともに、以後同様の地域活性化プロジェクトが当地にて数多く起動するさきがけとならんことを期待するものです。

今後も、当ファンドは、3社のネットワークやファイナンスノウハウを活用し、地域金融機関と協調しながら、地域の観光活性化に資する事業への成長資金等の供給を通じて、地域経済の活性化に向けて全力を挙げて取り組んで参ります。

船坂酒造店の概要は以下のとおりです。

商号	有限会社船坂酒造店
所在地	岐阜県高山市上三之町 105 番地
代表者	代表取締役会長 有巢 一臣 代表取締役社長 有巢 弘城
創業	元禄年間(大文屋として創業)
事業内容	酒製造・販売・飲食
主銘柄	四ツ星、深山菊、甚五郎、白無垢、夕映え 等
URL	http://www.funasaka-shuzo.co.jp/

【参考資料】

1. 町並み保存地区内の店舗写真



2. 小規模醸造設備写真



3. 大吟醸「四ツ星」と同意匠(写真)



以上

<お問い合わせ先・ご相談の連絡先>

株式会社地域経済活性化支援機構

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階

代表: TEL 03-6266-0310

地域活性化支援部: TEL 03-6266-0380